安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌
平成26年 夏 第40号

あかり
A K A R I

看護師さんを
募集しています

新任のご挨拶 ―― 1
小児てんかん学研修セミナーの報告 ―― 2
重症心身障がい看護院内認定看護師３名が誕生 ―― 3
世界パープル・デー ―― 3
てんかんの手術を始めた頃のこと ―― 4
Ａ４病棟での入院生活/これ、何だろう!? ―― 5
新人自己紹介 ―― 6
てんかん外来再診の診療体制/医療連携室 ―― 7
はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本 8

新　任　の　ご　挨　拶

長い春を待ちかねた桜の花が満開に咲きほころぶ中、４月１日付で看護部長として着任いたしました内山と申します。

着任当初は右も左もわからず、毎日が不安と緊張でいっぱいでした。しかし、一日中聞こえてくる小鳥の囀りと緑豊かな山々の眺めに癒され、そして何よりも看護部をはじめとした病院職員の皆さんに温かく迎え入れていただいていると実感することで、少しずつではありますが、病院のことや看護部のことを学びながら２ヶ月目を迎えています。

さて、病院機能の屋台骨ともいえる看護部に、今年度も新たに看護師長をはじめとした19名の看護師と３名の療養介助専門員をお迎えしました。各々が将来の夢を叶えるために、大きな希望を持って入職されたことでしょう。

これからは、病院の基本理念である「安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療」を実現するために、各自の持つ力を、そして自分らしさを発揮していただきたいと思います。これから経験と学習を積み重ねることで、専門性の高い知識や技術の提供ができることは勿論のこと、患者さんの痛みや辛さ、そして喜びを共感できる豊かな感性と、耳を傾けてそばにいることの意味を考えられる看護職員として成長されることを願っています。

新人看護職員には新人なりの、中堅看護職員には中堅なりの、そしてベテラン看護職員にはベテランとしての力が備わっています。職員ひとり一人の力は小さくても、お互いの力を支え補填し合うことで、1＋1を3にも4にもすることができるのが、看護部の強みです。「一人一人の患者様を尊重し、安全で安心できる看護」を提供できる看護部として益々成長していきましょう。

これからは、いろいろな職種の方々、患者さんやご家族の皆さんのご指導を頂きながら、垣根を越えて本音で話し合える看護部でありたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

（看護部長　内山 忍）

小児てんかん学研修セミナーの報告

臨床研究部長　今井 克美

2014年1月17、18日の2日間、当院講堂におきまして「小児のてんかん学研修セミナー」が全国の医師を対象として開催されました。北海道1名、東北3名、関東14名、東海北陸7名、近畿9名、中国1名、四国3名、九州4名と、全国から42名ご参加していただきました。所属科は、初期研修中2名、小児科32名に加え、全国の小児病院神経科からも8名の参加がありました。卒後年数は、卒後2年までの初期研修医2名、卒後3-5年目の後期研修医18名、卒後6-8年目12名、卒後9-11年目5名に加え、卒後13-20年目4名、卒後25年目1名と大ベテランの先生方もおられました。

セミナーのプログラムは表のとおりで、静岡てんかん・神経医療センターの医師が分担しました。休憩時間を利用して各病棟や検査室、療育棟をご覧いただく病院見学もあり、てんかんセンターの特殊性と数々の工夫に接していただけたことと思います。

一日目の夜には懇親会を行い、小児てんかん患者の相談や小児てんかんの医療・教育システムの改善に向けての議論も行うことができました。二日目の午後には困っている小児てんかん患者の相談が参加者2名からあり、持参された脳波を広げて活発な質疑応答を行いました。今後の診療にきっとお役立ていただけたことと思います。セミナー後にはそれぞれご所属の医療機関に戻られ、地域のてんかん診療に寄与していただくとともに、当院との医療連携につなげていくことが期待されます。また、将来当院で長期研修を開始される先生方が現れることを期待しております。

このセミナーは毎年行われており、来年も同時期に行われる予定です。開催案内は3～4カ月前に当院ホームページ上に公開されますが、すぐに予約が埋まってしまうことが多いのでご参加希望の医師はお早めにお申し込みください。なお、成人のてんかん学研修セミナーは8月末か9月初めに開催されております。

てんかん学研修セミナー プログラム

平成26年1月17日（金）、18日（土）

1月17日（金）

時　間	講　　義	講　師
10:30	開会挨拶	井上 有史
10:40-11:00	てんかんの診断から治療のアウトライン	高橋 幸利
11:00-12:00	部分てんかんの発作症状（脳波）	池田 浩子
12:00-13:00	昼食	
13:00-14:00	全般てんかんの発作症状と脳波	重松 秀夫
14:00-15:00	小児のてんかん症候群	大谷 英之
15:00-15:40	病院見学（1～4班） coffee break	
15:40-16:40	小児てんかんの画像診断	松田 一己
16:40-17:20	発作時脳波の読み方・デジタル脳波	山口 解冬
17:20-18:00	てんかんリハビリテーションと療育	久保田 英幹
19:00-	懇親会（ホテルセンチュリー静岡）	

1月18日（土）

時　間	講　　義	講　師
9:00-10:00	てんかんの外科治療	臼井 直敬
10:00-10:20	coffee break	
10:20-11:20	小児てんかんの薬物治療	今井 克美
11:20-11:40	ケトン食療法	今井 克美
11:40-12:00	Rasmussen症候群とてんかん自己免疫病態	高橋 幸利
終わり次第	閉会挨拶	井上 有史
13:00-14:30	症例検討会予定（2症例）	司会：高橋幸利

重症心身障がい看護院内認定看護師3名が誕生

教育担当看護師長
鈴木 淑夫

井上院長と３名の重症心身障がい看護院内認定看護師

平成26年３月、新たに３名の院内認定看護師が誕生し、重症心身障がい看護院内認定看護師が６名となり、てんかん看護院内認定看護師６名と合わせ、12名となりました。

今回重症心身障がい看護院内認定看護師となった３名は、“自分たちが見本になり、一緒に勤務する看護師が、認定看護師になりたいと思えるよう頑張りたい”“自分の知識を深め、病棟スタッスに知識を広めたい”“新しい知識・情報を広めていきたい”と意気込んでいます。今年度もてんかん看護・重心看護それぞれの分野で頑張っていきます。どうぞ宜しくお願い致します。

世界パープル・デー

管理課長　成田 博

毎年3月26日は世界パープル・デーとされ、「てんかんの正しい知識」を広め「てんかん患者の孤立をなくす」ためのイベントが世界数十カ国で行われました。世界パープル・デーは、当時9歳の「てんかん」に苦しむカナダ人少女「キャシディー・メーガン」ちゃんよって始められ「病気に対する誤解」を解くために話し合い、世界中のてんかんに苦しむ人たちが「決してひとりではない」ことを知ってもらうとともに、一般の方々にも「てんかんに関する正しい知識」を広めるためのイベントです。

てんかんは慢性の脳の病気で、大脳の神経細胞が過剰に興奮するために脳の症状（発作）が反復しておこる病気で、国内には約100万人の患者がいると推計されており、近年では運転中のてんかん発作による交通死傷事故がマスコミでクローズアップされるなど、てんかんに対する関心は高まっていますが、その反面、てんかんを持つ人の社会生活にも大きな影響をおよぼしています。

静岡てんかん・神経医療センターでは、てんかんに対する偏見をなくし、てんかんを正しく理解してもらうことを願い、「パープル・デー」は、院内をシンボルカラーのフレンドリーパープルの生花や飾り付けました。職員もパープルカラーのポロシャツやパープルのリボンを身につけ、患者さん・ご家族をお迎えしました。

また、てんかん相談コーナーを設置し患者さんの相談に応じ、待合室でビデオ放映して「てんかん」への理解をアピールするなど行いました。そのほか、ピエロの衣装をまとったホスピタルクラウンさんや人形劇団のこのこさんが患者慰問に訪れ、イベントを盛り上げ、患者さんたちを楽しませてくれました。

来年以降も「世界パープル・デー」に参加し、多くの人々に広く伝わるよう取り組んでいきます。

てんかんの手術を始めた頃のこと

元診療部長・脳神経外科　三原 忠紘

当センターの前身・静岡東病院は1975年（昭和50年）に設立されましたが、この年は日本のCT元年にあたります。CTの出現はとくに脳の病気を扱っている臨床医にとっては衝撃的な出来事でした。というのも、それまでの画像検査は脳血管撮影と気脳撮影であり、これらの検査では脳そのものは写りませんので、てんかんは多分に遺伝性の病気だろうと思われていたのですが、CTを行ってみると、脳の奇形や萎縮、また腫瘍性の病変などが多くみつかることがわかってきたからです。

静岡東病院には国立療養所としては第1号のCTが開設3年後の1978年に導入されました。脳腫瘍などがみつかると、近くの大学病院などに紹介していましたが、どのような手術をしてその後に発作がどうなったかといったことを詳しく知りたくても、返書ではよくわからない。そこで、青写真にのっていた脳外科部門の設置が具体化されていくことになり、CTの出現がそれを早めたように思われます。

手術室のスペースはありました。しかし、外科的な診療体制のまったくない病院でしたので、成人病棟（6病棟）の一部を改造して術後の回復室と頭蓋内脳波室にあて、手術に必要な医療機器を導入し、また、外科的な看護体制を確立するための準備に1年を費やして、手術は1983年より始めました。

当時、てんかんの手術は国内ではほとんど行われていませんし、精神科の先生の中には批判的な方もおられましたので、これを国立の医療機関で立ち上げるとなると、これは一大事であり、病院の総力が結集されました。陣頭指揮にあたられた清野昌一先生（当時副院長）は精神科で外科のことはわからない。気が気でなく手術が終わるのを待ち構えていて、上願総師長や主だった師長さん達と出口で立っておられました。夜中の12時を過ぎたこともありましたが、この光景は数年間続いたように思われます。

外科治療の目的は発作を止めることですが、そこに至る診断プロセスも重要であり、今日のようなMRI、SPECT、PET、あるいはMEGはない時代ですので、頭蓋内脳波（慢性頭蓋内脳波発作同時記録）を原則として全例に行うことにしました。これは頭蓋内の脳表や脳内に電極を留置し、24時間の連続した脳波記録を行い、魚釣りのように発作が起こるのを待ち続けて捕らえ、発作がどこから始まるかを調べるものですが、それをみた精神科の先生は‘カルチャーショックだ’、動物実験をしていた先生は‘ネコの脳波だ’といって驚嘆していました。当時はペーパレス・デジタル脳波計ではなく、波形をインクペンで紙に書く方式であり、放っておくと脳波用紙が絡まってしまいます。ビデオテープも8時間しか持たないので、松田先生と鳥取先生と私の3人で3交代の脳波技師のようなことをしていました。しかし、そのうち疲れてきましたので、師長さんに夜間帯の脳波整理とテープ交換をお願いしたところ、‘それは看護業務ではありません’と断られました。

職員の外科治療に対する関心を喚起するために、着替えしないで外から手術の様子がわかるように、のぞき窓と可動式のテレビカメラを取り付けました。内科系の先生方にも蝶形骨電極の留置、アミタール・テスト、頭蓋内脳波の解読などをお願いしました。また、病棟スタッフとの情報交換会を月に一度は開くようにしました。

手術を始めて2年が経ち頭蓋内脳波を10例経験した段階で、このような体制でよいのか不安になり、現院長の井上有史先生と北米の主なてんかん外科施設を見学する二人旅に出かけました。バンクーバーのジュン・ワダ先生の所を拠点にして、モントリオール神経研究所、クリーブランド・クリニック、ロサンゼルス校、イエール大学などを訪れ、井上先生はアミタール・テストを学び、私は電極留置のヒントを得ましたが、それ以上の収穫はいまの体制で進めてよいという自信を深めたことでした。

1991年、静岡で日本てんかん学会が開催され、会長は清野院長であり、シンポジウムのテーマに‘てんかんの外科治療’を掲げました。外科治療がテーマになることは始めてのことであり、学会が混乱するのではないかと心配しましたが、それも杞憂に終わり、外科治療に手を染めたことのある先生方からは‘てんかん外科がやっと認知されたんだ’といった声が聞かれました。

その頃の6病棟は在院日数が平均約3ヶ月でしたので、患者さんと一緒にソフトやバレーボールをしたり、院外の公園などに出かけたり、また、病棟看護師の他に、社会福祉士、臨床心理士、精神科の先生などを交えて、なんでも話し合うグループ・ミーチングを行っていました。患者と治療者という関係を超えたなにかがあった。今は昔20年も前の話です。

A4病棟での入院生活

副看護師長　中田 美紀

療育棟を借りて、
パパママリフレッシュ。
保育士・看護師と
一緒に遊びます。

ボランティア（クラウン）が
来ると、みんな離れません。

Q1. 子供のてんかんについて知りたい。

病棟での本の貸し出しや、月に１回付き添い様に勉強していただけるような家族教室を開催しています。テーマは、疾患・薬について、脳波の見方など、専門職に講義をしてもらっています。

Q2. どの位の年齢の子がいますか？

０～６歳の児が多くいます。平均年齢は約４歳ですが、時々、院内学級に通う年齢の児もいます。

Q3. ケトン食について不安です。

医師と看護師で食事や低血糖についての説明をします。全期間を通して、栄養士の関わりもあり、自宅での調理についてのアドバイスも行っています。不安なく自宅でも続けられるように援助しています。

Q4. 長期の入院生活を続けられるか不安です。

不安な時は、いつでも医師・看護師にお話下さい。病棟では、アロマセラピー・パパママリフレッシュ・季節のイベントを行いながら楽しく治療が継続できるように援助しています。

家族教室の風景
（発達についての講義中）

クリスマス会にて、
ゴセンセイジャー登場!
（5人の先生じゃ～、
なんちゃって（^。^）ノ）

これ、何だろう!?

療育指導室　髙橋 輝

これは療育スタッフと小児てんかん病棟に入院されていた親御さんとの間で、話し合いと試行錯誤を重ね作られたベストです。

このベストの特徴は、後方に持ち手が付いていることです。ベストを着たお子さんの後方から、大人が持ち手を持って共に行動することで、急な発作による転倒を防ぐことができます。ベストには頑丈なマジックテープが取り付けられており、お子さんの身体に合わせてしっかり固定をすることができます。

このベストがなぜ誕生したのか、ご紹介したいと思います。

ある年、小児てんかん病棟に身体を動かすことがとても大好きなお子さんが入院されていて、療育中や公園では元気いっぱいに走り回っていました。ある時期から、睡眠時主体だった発作が、日中にも起こるようになり、遊んでいる最中に発作による転倒で怪我が目立つようになりました。親御さんは、「怪我をしないか心配です」と話し、病室から出る機会が少なくなったり、療育活動を見学することが多くなりました。当然、お子さんは、「遊びたい」と言います。親御さんも「遊ばせてあげたいけど、怪我が怖いです」「どのようにしたらよいでしょう」と頭を抱えていました。そこで療育スタッフで検討を重ね、活動に参加するための補助具を作成することにしました。親御さんと繰り返し話し合いを行い、採寸やテストを経て、ベスト型の補助具ができあがりました。ベスト型にしたのには理由があります。マジックテープでしっかり固定したベストを着ることで、体幹を支えることができます。後方に持ち手を取り付けることで、大人が常に持って行動することができ、発作による転倒を支え怪我を防ぐことができます。また、手を繋いで介助をする際に、手を振りほどこうとするお子さんが多くみられましたが、着てしまうことでお子さんは両手を使うことができ、好きな様に遊ぶことができます。実際に、親御さんがベストを使ってみたところ、初めは、「子どもと一緒に走るのは大変です」などと話していましたが、嬉しそうに走り回るお子さんの姿に、ご自身でも同様のベストを作り、散歩など出掛ける機会が増えていきました。その様子は他の親御御さんたちにも広まり、好きなキャラクターを用いた物や、可愛い模様の付いた物など様々なベストが親御さん達によって作られていきました。

このベストがすべてのお子さんに有効なのか、体重制限や、強度などでの安全性は確認ができておらず、これから検討を重ねて行く必要があると思います。私達は、これからもお子さん一人ひとりのニーズに合わせたサポートの仕方を考え、それらを親御さんと話し合って行きたいと思っています。

新人自己紹介

A2病棟　岡野 沙亜来

出身地■静岡県伊豆の国市　趣味■ショッピング・旅行
抱　負■今は自分のことで精一杯ですが、患者さんと、その家族を第一に考え、患者さんに信頼される看護師になっていけるよう、頑張っていきたいと思います。

A2病棟　加納 海咲

出身地■静岡県伊東市　趣味■ライブ・サッカー観戦
抱　負■初めてばかりですが、毎日笑顔で頑張っていきたいです。日々成長していきますので、よろしくお願いします。

A2病棟　渡邉 里菜

出身地■静岡県沼津市　趣味■ショッピング
抱　負■今はまだ未熟な部分を少しでも早く成長させて、日々患者さんの役に立てるように頑張ります。小さな患者さんのサインにも気付けるようにコミュニケーションをとり、毎日笑顔で接することができるように頑張ります。よろしくお願いします。

A3病棟　中塚 奈緒子

出身地■京都府京都市　趣味■ランニング・バドミントン
抱　負■患者さんと共に毎日勉強しながら看護技術を向上させていきたいです。積極的に声掛けをして、経験を積んでいきたいと思います。宜しくお願いします。

A3病棟　栗田 亜加根

出身地■静岡県静岡市　趣味■カラオケ
抱　負■明るく笑顔で頑張ります。至らない点が多くあると思いますが、ご指導よろしくお願いします。

A4病棟　長谷川 由美子

出身地■静岡県静岡市
趣　味■手芸・韓国ドラマを観ること
抱　負■新卒で入りわからない事が多い中、先輩たちが親切丁寧にご指導くださり、とても感謝しております。少しずつですが確実に仕事を覚えていき、チームの一員としてよい看護が提供できるように頑張っていきたいです。

A4病棟　吉田 裕子

出身地■静岡県静岡市　趣味■読書
抱　負■A4病棟ではお子様とその御家族が安心して過ごしていただけるように環境を整え、思いに寄り添えるような看護を目指したいと思っています。まず1つ1つのことを正確に行えるように頑張りますので、ご指導よろしくお願いいたします。

A5病棟　後藤 早稀

出身地■静岡県三島市　趣味■バレーボール
抱　負■まだまだ分からないことだらけで不安な毎日ですが、患者さんとの関わりを大切に日々頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

A6病棟　平田 節子

出身地■岡山県倉敷市　趣味■読書
抱　負■患者様が安全に安心してすごされることをサポートできる看護師になれるよう日々頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

B2病棟　堤 千夏

出身地■福岡県宗像市　趣味■ショッピング
抱　負■毎日、患者様の笑顔で元気をいただいています。私も患者様に笑顔と安心を与えられるよう、日々学びながら明るく笑顔で頑張ります。よろしくお願いします。

C1病棟　井上 麻里

出身地■三重県桑名市　趣味■買い物・散歩
抱　負■初めてのことばかりで、迷惑をたくさんかけると思いますが、一日でも早く立派な看護師になれるよう日々精進していきたいと思います。

C2病棟　川内 雄太郎

出身地■長崎県雲仙市　趣味■温泉に行くこと
抱　負■自分は患者さんと患者さんの家族を笑顔にできる看護師として働いていきたいと思っています。まだまだ看護師としても人としても未熟であり、先輩方から学ぶことが多くあると思うので、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いします。

看護師さんを募集しています!

①常勤職員：病棟勤務　夜勤有り　　②非常勤職員（外来、通所事業、病棟）

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか？相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL ● 054-245-5446　　E-mail ● kango-bu@szec.hosp.go.jp

てんかん外来再診の診療体制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00　午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室		山　崎	臼　井桂	山　崎	臼　井直
第2診察室	久保田英			久保田英	
第3診察室	今　井		井　上		松　田
第4診察室		鳥　取	日　吉		日　吉
第5診察室	池　田仁	池　田浩	池　田浩	寺　田清	寺　田清
第6診察室	芳　村			芳　村	松　平
第7診察室		荒　木			那　須
第8診察室		西　田	高　橋		
第9診察室	重　松			大　谷	大　谷

神経内科

	月	火	水	木	金
第10診察室	杉浦	小尾	小尾		小尾
第11診察室					馬場國

特殊外来

転倒予防外来	随時	小尾
物忘れ外来	随時	小尾
遺伝相談	適宜	高橋、小尾
禁煙外来	随時	池田仁

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室（予約センター）を設置しています。ご利用ください。（平日）

ＴＥＬ■054-246-4580(初診)
054-246-1065(再診)
ＦＡＸ■054-246-4607
予約センターの受付時間
●9:00～12:30　●13:30～17:00
E-mail ■renkei@szec.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。
上記、医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人■
寺田　清人　高嶋　春美　鈴木　淑夫
高橋　昌明　仲野久美子　傍島　隆
中神　基充　堀　友輔　高橋　輝
春名　令子

発　行■平成26年7月10日
国立病院機構
静岡てんかん・神経医療センター
〒420-8688　静岡市葵区漆山886

ＴＥＬ■054-245-5446
ＦＡＸ■054-247-9781
ＵＲＬ■http://www.shizuokamind.org
E-mail■shizuoka@szec.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約制は、ご本人・ご家族から当院医療連携室（054−246−4580）へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

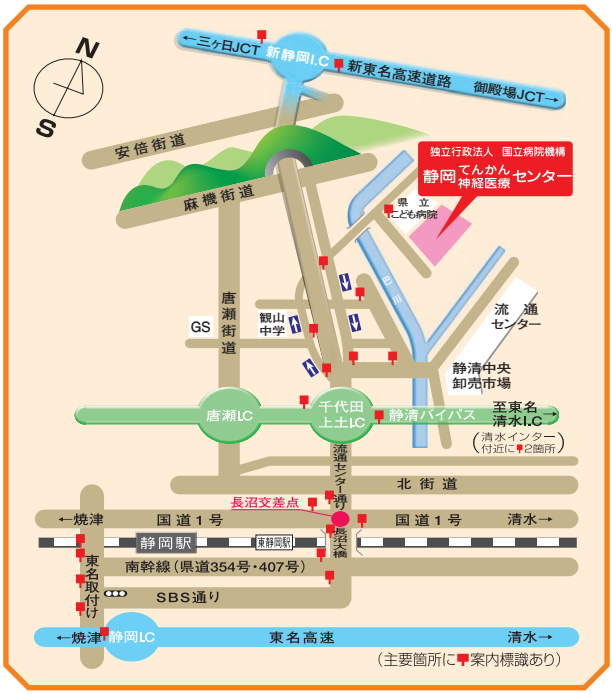
現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用（2,625円）がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

当院へのアクセス access

バスをご利用の場合		●JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の“静岡神経医療センター”で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人360円、小児180円。
タクシーをご利用の場合		●JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
お車の場合	東京方面から	●東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約20分。 ●御殿場JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
	名古屋方面から	●東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約30分。 ●三ヶ日JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本 BOOK

●てんかんの手術の正しい理解【南山堂、2013年】

手術適応、発作やQOLの改善、合併症など、外科治療の最新情報をわかりやすく解説した一般向けの本。井上院長の書評が南山堂のホームページに載っています。

●新てんかんテキスト〜てんかんと向き合うための本【南江堂、2012年】

当院の59名のスタッフが、医学から生活にいたるまで、乳児から高齢者に至るまで、てんかんをめぐる種々の側面をとりあげ、わかりやすく解説しています。

●小児てんかん診療マニュアル【診断と治療社、2012年】

てんかん診療の基礎知識、鑑別診断と治療のポイント、患者・家族への説明に至るまで、診療場面で実践的に役立ちます。改訂第2版増補版。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

❶てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
❷ホームページによる情報提供　http://epilepsy-info.jp/
❸てんかん協会との連携　❹医療などの相談(予定)